



細胞シミュレーション国際研究協力グループ発足 ～ 慶大・富田勝教授が初代チェアマンに～

- **Special Interest Group of Biological Simulation (SIGSIM)** がこの秋発足。
- ポストゲノム時代を睨み、細胞のコンピュータシミュレーションを目指す
- 初代チェアマンには慶應大学環境情報学部の富田勝教授が就任
- スタンフォード大、ケンブリッジ大、IBMなどの有名研究室が参加表明



21世紀の生命科学研究

- ゲノム：DNA配列の網羅的解析
- プロテオーム：蛋白質の網羅的解析
- トランスクリプトーム：遺伝子発現情報の網羅的解析
- メタボローム：細胞代謝の網羅的解析

- 細胞シミュレーション：情報を統合
バーチャル実験：創薬、不可能な実験
世界規模の協力が絶対必要不可欠



細胞シミュレーションのための 国際研究協力グループを設立

- **Special Interest Group of Biological Simulation (SIGSIM)** が、国際情報生物学会後援のもとに今秋発足
- **幹事メンバー**
 - マクアダムス教授（米スタンフォード大学）
 - ブレイ教授（英ケンブリッジ大学）
 - カリファノ博士（IBMワトソン研究所）
- **初代チェアマンに慶大・富田勝教授が就任**
 - ✓ 細胞シミュレーションの分野で世界的に有名な「E-CELLプロジェクト」の先駆性を評価された
 - ✓ 21世紀の重要な基礎研究の一分野で、日本がリーダーシップをとることになる